

03_ 俺たち男の最大の“弱点”

どうも、高橋りょうです。

今日はですね、、

かなり興味深い内容になっていますよ。

と、

自画自賛するのもアレですが、

しかし、本当に興味深い内容なんですよ。

というのも、

今回話す内容を腑に落としてもらえれば、
あなたがこれまで、対女性のシチュエーションで
テンパって悩んでいた、

99%の根本原因が理解できるから、です。

原因さえ分かってしまえば、
対策ができるものです。

そんな、重要なお話をします。

...

これまで話した通り、

「この女性、すごくキレイだ…。セックスできたらいいなあ…（ドキドキ）」

この思考レベルでは、
あなたが惚れた美人女性を、
惚れさせることなど、できません。

女性は、
そんな下心を感じさせる、レベルの低い男に、
異性としての本能的魅力を感じないから、です。

だから、

どうでもいい人、なんです。

友達ぐらいにはなれるかもしれない。

しかし、恋愛対象の男として
昇格する日など、一生来ないでしょう。

昔の僕がそうでした。

タイトルにもあるように、
本日のテーマは、

『俺たち男の最大の“弱点”』

です。

もう、キーワードが出ているので、
勘の鋭い人は、もう気付いているかもしれません。

“俺たち男の弱点”

なんだと思いますか？

...

...

言いますね。

それは、

“セックス”

なんです。

このことを、

順を追って説明していきます。

(ちょっとだけ難しいことを言いますが、しっかりついてきてください)

僕たち人間の脳には、
食欲や性欲などの感情を引き起こす

『大脳辺縁系』

と呼ばれる脳の部位があります。これは、動物として
生きる原始的な脳の部位です。

それに対し、
感情をコントロールし、論理的な判断を下す

『前頭連合野』

と呼ばれる脳の部位があります。ちょうど、額の裏側に位置する場所です。このお陰で、僕たちは知性のある存在としていられるんですね。

名前が難しいので、仮に、

大脳辺縁系を、『感情脳』、
前頭連合野を、『論理脳』としましょう。

さて、ここで問題。

「この女性、すごくキレイだ…。セックスできたらいいなあ…（ドキドキ）」

この時のあなたは、

『感情脳』と『論理脳』、
どちらが優位になっていると思いますか？

...

...

言わずもがな、
『感情脳』ですね？

少し簡単過ぎましたね。

すみません。

この知識を前提にして、
話を続けます。

...

僕たち男には、
ドタイプ美人女性を一目見た瞬間、

本能的に、

「この女性とセックスせよ。」

という、感情脳からの強烈な指令を、
身体に下そうとします。

この時、論理脳が0%の人が、もしいたら、
即、その場でその女性を強姦(レイプ)するわけです。

女性を押さえつけて、
無理矢理、服を脱がせて、
自分のペニスを、その女性の膣に挿入し、

ピストンして、射精する…。

(ふわぁ…気持ちいい…)

もし、そんなことをしても許される社会だとしたら、、、
誰からの怨みも買うことがない世の中だとしたら、、、

さらに、それ（レイプされること）を女性が望んでい
たのだとしたら、、、
喜ぶとしたら、、、

想像してみてください。

...

レイプしますよね？

たぶん、そうだと思います。

僕もそうです。

真夏のビーチで、

いい感じでキレイに焼けていて、

髪はサラッとしていて、

胸は豊満、キュッとくびれがあって、お尻も小ぶりで

上向き。

肌の露出度の高い、
童貞を殺すようなビキニ姿の美女が歩いていたら、、、

その美女を掴んで、
無理矢理、その美女のビキニを剥がして
自分のペニスを、彼女の膣に入れて、

ピストン…

そして射精…。

最高じゃないですか。

男の夢です。

物理的には、不可能ではありません。

しかし、
当たり前ですが、
現実はそんなことは許されるはずもなく、

レイプすれば、当然、性犯罪者として社会から厳しく
罰せられるし、
その女性の心を深く傷つけ、自分も傷つけることにな
るし、
周りの人たちからの信頼も、一度に失う…。

こんな未来は、
簡単に予想されるわけです。

論理脳がしっかり機能しているおかげです。

論理脳は、感情脳から出された指令を
一旦停止させ、理性的に正しいか？を判断してから、

再度、身体に指令を出します。

その結果、

「この女性、すごくキレイだ…。セックスできたらいいなあ…（ドキドキ）」

ぐらゐの状態に、
留まらせているわけですね。

しかし。

さっきも言いましたが、
この程度では、女性に本能的魅力を感じさせる
思考レベルとしては、低いんですね。

必要“不”十分、と言ってもいいかもしれない。

女性は、この時の男性の心理を、
本能的に感じ取ります。

「なんか、どこか下心を感じる…この人…。」

みたいな違和感を覚えて、
その男性との間に、キョリを置きます。

で、
恋愛成就しない、と。

これが、

狙った美女にモテない、99%の男の思考レベルです。

要は、

下心を隠しきれていないんです、その男性は。

でも、これが普通です。

性欲は、原始脳である感情脳が司っているので、

健全な男性であれば、

強烈な方が当たり前です。

だから、俺たち男の最大の弱点は、

“セックス”

と言えるのです。

『隠す』のは、
並大抵のことではない。

ドタイプ美女が目の前に現れた時には、
否応なく、発火するものです。

…でもですね。

下心は、トレーニングによって、

女性も気付かないレベルで、『隠すこと』が可能なんです。

...

あなたにも、こんな経験はありませんか？

“どうしてもいい女からは、好かれる”

僕も、経験があります。

ぜんぜん異性として意識していなかった女友達からある日、手紙を受け取ったことがありました。

そこには、

「実は、あなたのことが好きでした。」

と、書かれていました。

モテの自慢話のようで申し訳ないのですが、
ここで冷静に考察したいのは、

なぜ、その女友達は、
僕を好きになったのか？

という点です。

(すみません。しばしこの話にお付き合いください)

僕が彼女にしたことは、何か？

彼女には、
何か困ったことがあった時、
何度も僕が助けていました。

もちろん、下心なしで。

それが積み重なって、
意図しない所で、

彼女を惚れさせてしまったようです。

そう。

“下心なしで、親切にした”

↑

これが、女性を惚れさせるキーワードです。

...

さっき、女友達には、
異性としての魅力を感じていなかったのも、

下心はなかった、と言いました。

...

ごめんなさい。

嘘です。

本当は、下心はありました。

男には、

「ああ、してーなあ…っ！」

と思うような、
下半身がムラムラする瞬間が、あります。

そんな時には、
異性として魅力を感じない女友達であろうとも、

「今、この子の膣にペニスを入れて、ピストンして射精したら、スッキリするだろうなあ…。」

と思うものです。

でも、そんなのは、
現実的には決して望まないわけです。

何よりも、友達としての関係を大切にしたい、
という想いが、遥かに勝っているから。

論理脳が、感情脳を、
しっかり抑え込んでいるのです。

だから、さっき話した
女性を惚れさせるキーワードは、

“下心なしで、親切にする”

ではなく、正確には、

“下心を感じさせずに、親切にする”

これが、正しい表現です。

...

少し長くなったので、

これまで話した内容をまとめますね。

僕たち男は、

見た目がドタイプ美女を目の前にすれば、

「この女とセックスしたい！」

という「性欲」という名の、強烈な情動が走ります。

この下心が、女性を遠ざけるオーラとして表れます。

だから、

その女性を自分に惚れさせたい場合、

その下心を、論理脳を使って、

相手が気付かないレベルにまで、『隠す』必要があり

ます。

先ほどの僕の女友達の例の場合、
異性としての魅力を感じない程度のレベルだったので、

少し、論理脳を稼働させれば、
下心は、包み隠せた、というわけです。

で、これを美女に応用しようとした場合、

「この女とセックスしたい！」

という性欲の情動レベルが、
女友達の比ではないので、

どうやって、トレーニングによって、
論理脳を強化していくのか？

↑

ここが、テーマになってきます。

これまで、何度も下心を
隠す、隠すと連呼してきましたが、

僕はこれを、

『隠すスキル』と呼んでいます。

これは、
論理脳の強化によって、習得可能です。

“論理脳が強い＝知能が高い”

女性は、知能の高い男性を
本能的に、優秀な雄（オス）として、魅力を感じます。

だから、美人女性ほど、
見た目に食いついてこない男性を見て、

「この人、私に魅力を感じないのかしら…？」

「一体、どんな人なんだろう？」

と、興味関心の矢印が、こちらに向けられることに
繋がりやすいのです。

では、いったいどうすれば

そのレベルにまで、論理脳を鍛えられるのか？

そのトレーニング方法は、一体何か？

それは、

明日、お伝えしようと思います。

...

今日、伝えなかったことは、

ドタイプ美女を見て、

すぐに感情脳優位となって、性欲が発火し、
相手に下心を感じさせるようでは、その女性を自分に
惚れさせることはできない。

しかし、そうなるのが、
俺たち男の本能的な在り方。

だから、俺たち男の最大の弱点は、

“セックス”

である。

この弱点を克服するには、
論理脳の強化が必要不可欠である。

…ということです。

まずは、この弱点について、しっかり理解として
府に落として頂ければ、OK です。

後は、

それに対して対策するだけですからね。

ということで、今回のメッセージは以上です。

ありがとうございました。